

## マンチェスター大学での研究生活

化学専攻 博士課程 2年 桂嘉宏

2014年2月1日から3月15日までの約6週間、イギリス・マンチェスター大学の Michael White 教授の研究室に滞在しました。White 教授は、イメージング技術を基盤としたシステムバイオロジー研究のパイオニアの一人です。日本において私が開発した人工光摂動モジュール分子を White 教授の研究室に持ち込み、その細胞内における分子数や拡散係数を求め、数理モデルに落としこむ一連のノウハウを学びました。教科書的な知識は予め有していたものの、顕微鏡の細かなセットアップやデータ解析法など、一から学ぶにはハードルが高い点が数多くあったため大変有益な滞在となりました。

また滞在中、日本との違いを強く印象づけられた点があります。それは彼らの何事も「share する精神」です。White 教授の研究室が所属する Faculty では、研究室を越えた人的、物質的、知識的なつながりが極めて強く、例えば、試薬や施設は複数の研究室で利用、運用したり、研究室を越えたオープンセミナーが頻繁に開催されたりしています。研究者が効率良くプロジェクトを進行させるための様々な工夫が施されていることを実感しました。実際的な研究技術を習得できたことに加え、このような異なる環境における研究活動に直に触れることができたことも私にとって大きな収穫です。

最後に、私の滞在を快く受け入れて頂いた White 教授、実験および日々の生活でお世話になった研究室の方々、さらにこのような貴重な機会を与えてくださった ALPS 関係者の方々と指導教員の小澤岳昌教授、副指導教員の塩谷光彦教授に心より感謝いたします。

